

平成二十八年三月一日発行
昭和二十二年一月二十四日(第三種郵便物認可)
明治二十八年創刊 毎月一日・十五日発行



Good News for Japan

ときのかね

罪の力を打ち破る

大将 アンドレ・コックス



「主は復活されました」と。
イースターの朝、世界各地で、多くのクリスチャンが夜明けと共に礼拝を守ります。そして、宣言するのです

イースターの日曜日は、私たち一人ひとりにとって、なんとすばらしい喜びの時でしょう！ 神は、復活されたキリストによって、罪の力を打ち破り、私たちが罪の力から解放されました。神は、復活されたキリストによって、私たち一人ひとりに確かな永遠の将来を確立されました。

ロビン&ビル・ウオラヴァー「作「輝ける賛美」という歌のコーラスで、こう表現されています。「全地よ、神に向かって喜び

今、多くの人にとって、宗教は、頭で考える哲学、特別な機会や状況の中でだけ関わるもの、残念ながら、日々の生活の中では特に意味をもたないものとなっています。その上、イースターのメッセージは人生を変える、ということが見逃されているのは



和紙ちぎり絵 © 森住ゆき

今年のイースターは 3月27日です

悲しいことです。イースターのメッセージは、哲学でも、宗教でもなく、十字架上で犠牲となられたキリストを通して与えられる、人間と神との関係に関わるものなのです！パウロは、コロサイの教会にあてた手紙の中でこのように言っています。
「さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。あなたがたは死んだのであつて、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。」(コロサイの信徒への手紙3章1〜4節)

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。」(ヨハネによる福音書3章16〜18節)

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。」(ヨハネによる福音書3章16〜18節)

(次ページ六段目に続く)

「さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。あなたがたは死んだのであつて、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。」(コロサイの信徒への手紙3章1〜4節)

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。」(ヨハネによる福音書3章16〜18節)

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。」(ヨハネによる福音書3章16〜18節)

(次ページ六段目に続く)

謹んで被災された方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

明らかに変化します。この手紙の中でパウロは、神との関係が確立された人々がどのように生きるべきかについて、具体的に言及したのでした。

私たちの霊的な目が開かれ、信仰によって、暗闇と苦しみに打ち勝つ勝利の経験をするようになり、神の永遠のご計画をより深く理解することができるようになります。

私たちは、信仰の目を通して、世界を贈られる神のご計画を理解します。それは、福音書に示されているものです。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。」(ヨハネによる福音書3章16〜18節)

「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。」(ルカによる福音書24章5節)

私たちも、キリストのおられない場所に、キリストを捜してはいけません。心配や悩みで心が沈み、キリストが共におられない、と思う時を経験するものです。

復活の福音(喜ばしい知らせ)を宣べ伝える者であり、そうであるべきです。自分自身、復活を経験した者―復活されたキリストに個人的に出会い、人生の変革を経験した者なのです。人生のうちに復活のキリストのご臨在と御力を体験した民！ 勝利者の群れなのです。あなたは、このことを信じますか？

私たちは、絶望する者ではなく、勝利者であるよう定められています。キリストの十字架での死と、最初のイースターの朝の復活によって、罪の力と支配とが、完全かつ永遠に打ち砕かれたからです。

「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。」(ルカによる福音書24章5節)

〈信仰の体験談〉

素直な心に された時

もりずみ
和紙ちぎり絵作家 森住 ゆき



自己流で始めたちぎり絵。制作する時には、神様の温かさ、神様への感謝や賛美を伝えられたら、と思っています。

本の世界を通して

私は群馬県桐生市郊外の山村で、農家の長女として生まれました。両親と曾祖父、祖母、叔父、叔母もいた大家族でしたが、農業での生活は貧しく、父は気難しく、家の中がいつもピリピリしているような家庭でした。唯一の楽しみは、その貧しさの中でも定期購入してもらえた「少年少女文学全集」を読むこと。本は現実の殺伐や辛さとは別の、未知の世界をたくさん教えてくれました。ディケンズやトルストイ、ヘッセといった作品も繰り返し読みました。今思うと、多くの文学作品を通して神様のことが心に蓄えられていたのかもしれない。

高校卒業後、経済的事情で

大学進学を諦めました。すると、進路を失っていた私に、父方の叔母が、二人の子どもの「住み込み家庭教師」となることを条件に、デザイン専門学校への道を用意してくれました。まだ幼かった二人のいとこは先天性聴覚障害で聾学校に通っていました。自営の両親が多忙なため、じつくり勉強を教える存在が必要だったのです。昼は専門学校に通い、夜はいとこたちと向き合う生活が始まりました。

当時、私の心の中には、自分の願う道を断たれた挫折感と運命への不満がありました。でも、若い二人が自身のサバイバルをかけて、言葉の習得に苦闘する姿に触れるうち、私の苦しみはいかに愚かで、無意味なものかに気づきました。三人で泣きながら言葉を理解していくこともありました。私は、(彼らに助けてもらった)と思っています。

私とは関係ない神様

専門学校を卒業後、グラフィックデザイナーとして働くようになり、やがて叔母の家を出ました。その頃には、いとこたちは東洋ローア教会で、次々に信仰をもっていました。が、(神様は弱さをもった人に必要なもので、彼らにとっても交流の場所ができて良かった)としか私には

思えませんでした。仕事は比較的順調だったと思えます。就職した会社の上司から、展覧会を開くようにと会場まで設定されたのがきっかけで、ちぎり絵と和紙でのイラストを制作するようになりました。

見よう見まねの自己流でしたが、和紙の優しい色合いや風合いに大いに助けられ、展覧会で好評をいただけたことは幸いでした。

仕事の傍らで楽しみにしていたのが、映画鑑賞です。いわゆる「単館系」の映画を見るための自主上映会や、ある男性と話すようになりました。そこで見たヨーロッパや東の映画には、神様なしには語れないようなものがあり、彼に、「映画に『神様』が出てくると、途端にわからなくなる」と言ってみました。すると彼は、「神様」のことはある時ふとわかるようなものではなく、学ばないと答えたのです。その「学ぶ」という言葉が引っかかりました。

神様を信じるって?

そのうち彼は、「高校時代の友人が牧師をしているから会ってみないか」と言いました。宗教は特殊な事情のある人が、痛み止めの注射を打つようなものだ、と私は思っていたのですが、教会に行ってみると、ごく普通の方々、落ち着いた様子で「神様に祈って」いました。自分の願いをかなえてもらう祈りではない祈り。驚きました。

彼の友人は、山口陽二牧師(現東京基督教大学教授)とい、当時は、東京都板橋区の教会の牧師をされていました。有名な大学を出て、どんな職業選択もできたろうに、小さな教会の小さな牧師館に住み、穏やかに「いやー、神様を信じて生きるって本当にいいことですよ」と笑っている。この方の背後には、自分のそれとはかけ離れた幸福感が存在するらしい、と思いました。

私の心は、破産状態

山口牧師は、私の住まいから近い、前橋市の教会を紹介してください、私は、礼拝と共に教会の初心者クラスに出るようになりました。それは、一九八七年のことでした。教会に通うのは、私にとつて社会見学のようなものでした。けれども、初心者クラス

(前ページより続く)
キリストの復活は、死と暗闇の鎖を打ち破りました。これは、今に至るまで真実であり、事実なのです。たとえ、私たちが、この世界で何を経験し、何を目にしようとも。

私たちは、日々の生活の中で、復活の力と勝利とを経験するようにと招かれています。さあ、頭を上げて、カルバリにおいて勝ち取られた勝利を経験している者にふさわしく、一日一日を生きようではありませんか。(万国福音)

※1 伝道者、使徒として活躍した。多くの手紙が新約聖書に残されている。
※2 イエスが十字架で死なれて三日目の朝、埋葬された場所に行き、空になっていた墓で最初にイエスの復活を知った女性
※3 イエスが十字架で処刑された場所。ゴルゴタとも言う。

で学ぶうち、聖書の御言葉が迫ってくるようになりました。語りかけてくるような……。「もし、罪はないと言っているなら、私たちは自分を欺いており……。」(ヨハネの手紙第一 1章8節)

「私は、自分でしたいと思う善を行なわないで、かえって、したくない悪を行なっています。」(ローマ人への手紙 7章19節)

「これって、私のこと?」と読むほどに、聖書は知的に学ぶだけのものではないと思えてきました。



信仰へ導いた舟喜拓生牧師と
(前橋キリスト教会で、1992年頃)

当時の私は、人を愛し続ける決断ができなかった自分に苦い敗北感を抱いていました。そして、それは結局「自分が快適で、やりたいように生きたい」というエゴイズムだったのだと気づかされました。この醜くて、自分で処理できないものが、私を深く疲れさせ、底なしの孤独に追いやっていったのです。

私は何とか「そこそ良い人」として社会生活を送れるかもしれないが、でも、良いおこないができたとしても心の奥では、その承認や見返りを得たい欲望からは決して自由になれません。

私の内面は、実は破産状態なのかもしれない、と思えてきました。もし自分の心がすべて表に見えてしまうならば、私はとても外を歩くことなどできない人間なのですから。聖書は、イエス様は人のすべての罪を十字架で負って赦し、清算してください、としっかりと語りかけます。私は最初、「(すいぶんお手軽だなあ)

と思いました。神様に祈った、信じたりする前に自分でもっと努力をすべきという考えの方が健全に思えたのです。そんな時、私の心が素直にされるために、彼の言葉が鍵となりました。「君は、世界のどこかに神様の前に堂々と立てる人がいると思っているの? そんな人は誰もいない。皆、罪人で、正しい人は誰もいない。イエス様が十字架で死なれたのは、君自身のためなんだ。」

それでも神様を信じて前向きになることを選べるようになりまし。神様を中心にした結婚をしていても、本質的な人間の孤独がなくなるわけではありません。けれども、いつも神様が一緒にいてくださり、決して一人ぼっちではないことを知った喜びは、何にもかえがたいものです。子育てにも不安があったのですが、神様がいてくださればできる、と思えるようになりまし。政治や社会の動きも我が事として関心をもち、そのために祈るようになりまし。

新しい命の力

私の好きな賛美歌の中に、「球根の中には」「讚美歌 21」575番」という歌がありまし。その中の「いのちの終わりは、いのちの始め」という歌詞を歌う度に、本当に私たちの死は出発である、と思えるからです。この新しい命の力を目の当たりにする経験がありました。

私にとつて母は、厳しい父に従うだけの、(こういう生き方はしたくない)という存在でした。けれども、私がクリスチャンになること、そして、クリスチャンと結婚することを家族に話した時、仏教の家である実家の家族は皆反対したのに、母だけが「この子は大丈夫です」と言ってくれました。「この子は、偶像礼拝をしなくなるだけで、これからも親を大事にするのですから、大丈夫です」と。私は仰天しました。あとで、母は、終戦直後の娘時代に街頭で配られた新約聖書を嫁入りのかばんの底に忍ばせてずっと持っていたこと、また、一年以上教会の祈祷会に通っていたことを知りまし。聖書には線まで引いてあり、母の忍耐強さの源はこれだったのか、と思いまし。



い命が始まっていることを目撃したのです。母はその後、病床で洗礼を受けまし。不思議なことに母はその後寛解し、今は家で生活しています。完全な治癒は難しく教会には行けませんが、私が随筆の連載や表紙画を担当させていたでいるキリスト教誌を読み、私の実家訪問の折には必ず一緒に祈っています。

て神様にお返ししたい、と。今年の九月下旬には、私が初めて属した、前橋キリスト教会(福音キリスト教会連合)での展示会を計画しています。絵と絵の間に、わかりやすい祈りの言葉を掲げ、会場を一巡することでキリストの福音をお持ち帰りいただける、そんな設営をするつもりです。これからも、このような働きに、喜んで取り組ませていただきます。と思っています。

私の大好きな御言葉は、「主の小道はみな恵み」(詩篇 25 篇 10 節)です。協道、でこぼこ道、通りづら道、そのすべてに神様の恵みがあると感じています。今までは、ほとんどちぎり絵の展覧会を開いてきませんでした。原画を販売しないので開催費を自前で賄えないという事情と、色染め和紙が光で急速に褪せしやすいためです。でも、年齢を重ねた今、自分が元気なうちに、作品を通して神様のすばらしさを伝える責任を感じています。長年、神様に祈って制作し、与えていただいたものを、すべて

クリト
ご住所
ご氏名

森住 ゆき プロフィール
群馬県生まれ。和紙ちぎり絵作家。単立行田カペナント所属。
1984年、短編『小鳥の冬』で、偕成社 絵本とおはなし新人賞、群馬県文学賞児童文学部門受賞。
1987年、受洗。その後、キリスト教系出版の表紙画や随筆などに取り組むようになる。1993年、著書『アメイジング・グレイス』(いのちのことば社)刊行。
2013年リニューアル出版されている (通算 11 刷)。



この部分を封書か葉書に貼り、裏面の救世軍にお送りください。

救世軍とは

The Salvation Army

プロテスタントの国際的なキリスト教会です。

創立者はイギリスのメソジスト教会の牧師だったウイリアム・ブース。一八六五年、東ロンドンの貧しい人々、社



会から顧みられない人々の物心両面からの救いを目指して、働きを始めました。現在、世界百二十七の国と地域で、助けを必要としている人々のニーズに応えながら、神の愛を伝えていきます。

① 誰でも、神を信じるなら即座に救われ、聖い生活を送ることができ、との信仰に立っています。そして、その信仰の体験談を、信徒は様々な機会に自由に話します。

② 人々の多種多様なニーズに迅速にこたえるため軍隊流の組織をとり、機動力・団結力を活かして活動しています。また、伝道者や信徒は制服を着用し、クリスチャンであること、いつでも手助けする用意があることを表しています。

③ 創立時から、アルコール依存症者の回復支援の働きをおこなっているため、伝道者や信徒はアルコール抜きのライフスタイルをとっています。

④ 男女は完全に平等で、職位、役割、奉仕、責任において、何の差別もありません。

⑤ どこへでも出て行って神の愛を伝えるため、ブラスバンドを用います。また、ブラスバンドに合わせ、タンバリンを様々な奏法でたたくのも、救世軍独特のもので、これらは、会館の中での礼拝でも用いられています。

⑥ 伝道者や信徒は、機会をとらえて、自分にできるボランティア活動をおこない、率先して献金するとともに、募金活動にも従事します。

救世軍の日本での働きは、一八九五(明治28)年に始まりました。現在は、四十四の小隊(教会にあたる)と十二の分隊(伝道所にあたる)、二十の社会福祉施設、二つの病院―ブース記念病院、清瀬病院(どちらもホスピス併設。清瀬病院では今年一月に新療養病棟が完成)を通して、働きを進めています。

ボランティア活動としては、街頭生活者支援、災害被災者支援などをおこなっています。

☆各地の災害被災者支援活動

●東日本大震災(二〇一一年)

宮城県、岩手県、福島県で支援を継続しています。今後は、今まで重ねたアセスメントを基に、新たな計画を進める予定です。また、原発事故により避難生活を送っている方々を訪ねて(東京都江東区、埼玉県加須市、福島県郡山市・会津若松市、集まりや、話を聞く機会をもっています)。

●広島土砂災害(二〇一四年)

災害が忘れられてしまったようだ、という人々の声がある中、地域に寄り添う支援を継続しています。

●関東・東北豪雨(二〇一五年)

被害が広範囲であるため、改修工事が間に合わない状況が続いています。年末にも、年越しそばの給食支援をおこないましたが、今後も支援を継続したいと考えています。



戸別訪問の後、集会所で交流(岩手県大船渡市永沢仮設住宅にて2015年末)



救世軍克己週間募金(三月～四月)

皆様のご協力をお願いいたします

救世軍では、毎年3月～4月に、克己週間という募金の期間を設けています。克己とは、「おのれにかつこと、意志の力で自分の衝動・欲望・感情などをおさえること」と辞書にありますが、今から130年近く前、創立者が「それぞれ1週間だけ何かを節約して、そのお金を献げよう」と呼びかけたことに端を発しています。当時、ヨーロッパにも救世軍の働きを広げるため、その資金を集める必要があったのです。これが第1回の克己週間募金となりました。以来、毎年、世界の救世軍で支援を要する人々のために募金がおこなわれ、用いられてきました。この期間中、信徒がまず克己、節約をして献金するとともに、広く一般の方々にもご協力を呼びかけています。

現在、世界中の救世軍で集められた寄付金は、イギリスにある国際本部に送られ、万国克己週間基金に組み入れられます。そして、救世軍の国際的ネットワークを通じ、開発途上国や災害被災地、難民の支援などのために役立てられています。また、ここ数年、日本で集められた寄付金の一部は、南アメリカ西部にある国ターボリビア、チリ、エクアドル、ペルー、ヨーロッパのポルトガル、アフリカのルワンダ、ブルンジ、アジアのバングラデシュなどの、貧困や災害に苦しめられている人々のニーズに応える支援活動にも用いられています。



ドイツのドレスデンにおける難民の支援

ご献金は以下の方法でご協力をいただいています

- 戸別訪問
制服を着用した伝道者や信徒が伺い、趣旨を説明してご献金をいただきます。
 - 郵便による送金
郵便振替
口座 00180-5-4400
加入者名 救世軍本営
現金書留
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-17
救世軍本営
※どちらも、「克己週間募金」とお書きください。
 - インターネットによる送金
救世軍ホームページ
<http://www.salvationarmy.or.jp>
※寄付目的の欄に「S.D.collection」とお書きください。
- ▶お問い合わせは、
救世軍本営 伝道事業部まで
Tel. 03-3237-0881

(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価

- ▼発行日 毎月一日・十五日
- ▼定価 一日号一部五〇円(〒六〇円) 十五日号一部六〇円(〒六〇円) クリスマス特集号(十二月一日号)一部一〇〇円(〒七〇円) 一年分(二七〇円)送料七五〇円 振替・〇〇一八〇五四四〇〇

発行兼印刷人 救世軍 代表者 勝地 次郎 齋藤 恵子

〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七番

電話 東京(03)三三七〇八八一

発行所 救世軍本営 印刷所 救世軍本営 関書印刷株式会社

(この欄に通信文を書くとは第三種扱いになりません)